

おります。結構反響がございまして、最近はいろんな経営者の方からの電話で「いついつかの講演会を聞きそびれたんでダビングしてくれ」なんていう話がよく参ります。これはこの番組そのものが地域に認知さてたっていいですか、その証拠じゃないかなということで、喜んでテープをお届けしているといったこととでございます。従いまして、この生活情報とそれから行政情報、それに地域文化情報の三つを基本柱にして番組作りをやっているということとでございます。これが一番の課題だろうと思います。

二番目の課題は何か。これはやはり経営の問題でございます。先程も木宮会長さんからもちょうとございましたけれども、コミュニティ放送局は放送エリアが非常に狭いわけですから、なかなかナショナルスポンサーが県域FM新潟さんと比べますとつきにくい。CMの料金設定を比べても、数分の一と。これもまあ、当然といえば当然なんですけど、といった状況でございます。一方設備の方は一応やはり国から認可された事業でございますので、そこそこの設備も必要になる訳です。設備もまたスタッフも当然必要でございます。ですから、結構設備と人でそのお金がかかるんですけれども、実入りが少ないということが各局の悩みでございます。先程お話ししたように、147局の半数が準民間方式で立ち上げた局でございますけれども、この約三分の二くらいが非常に赤字体質で困っているということが、私どもの業界団体であります全国コミュニティ放送協議会という会がございしますが、そこからも発表になっているということとでございます。ただ、燕三条FMの場合は、実は11月に三条市と放送委託契約を結ぶことができて、おかげさまで三条市、それから燕市、両市との行政とのつながりがこれでできました。従ってこれから一日も早く健全な経営体制へもっていくというのが、私ども経営陣の仕事ではないかなというふうに思っております。

で、三番目の課題は何かと言うことですが、これは一番大きい課題でして、人材の問題でございます。これは人材育成の問題なのです。これは皆様方のところもちろん同じ問題なんでございますが、コミュニティFMの場合は、非常にそのラジオっていう世界は非常にマニアックな人が多いんですね。まあ皆さんもよくご承知かもしれませんが、狂信的なリスナーもいまして、女の子のアナウンサーの帰り時間を裏口で待っているみたいな、物騒な話もあるんです。なんかちっとこういう危ない話も実はありまして、非常にマニアックな人が多い。勤めている人もそうだし、周りの人もそうですね。そういう人が多い。そういう人を戦力にしていってというのは大変難しいというふうに、私自身実はこの世界に入りまして感じております。

たとえば、私、銀行の県外の支店長をしておった時もこういうタイプの若者がおりまして、県外の店でございますので渉外とか融資とかどちらしかない訳ですね。若い頃の仕事っていうのは 渉外担当か 融資担当 それで 渉外担当にした訳です。そうしたら半年位で変になりまして、ノイローゼみたいになっちゃって、なかなかお客様のところへ行けない。で、車の中で一時間じっとしてるといような話を聞きまして、これはまあ大変だという訳で最初のうちは私が連れて出てですね、やり方を教えたりしたんですけれどもなかなか治らないんです。このままおきますと、もう銀行員として不適格というふうなレッテルを張りますと、もう生涯銀行では冷や飯を食わなければならないと。パートの女性がするような仕事をしなければならないというふうになりますので、本人のためにも銀行のためにも大変な損失でございます。で、人事部に話しまして、なんとか人と接点

- ・三条市障害児教育研究協議会より 「市内障害児学級・月々岡養護学校児童生徒の卒業進級を祝う会」のご案内
日時 平成14年3月1日（金）9：30～
会場 三条市総合福祉センター
- ・ガバナー事務所より 年末年始休日のご案内
12／29～1／6とさせていただきます（北RC事務局も同様とさせていただきます）

- ・ポリオプラスの支援依頼が来ております。理事会で承認頂いておりますのでボックスを回します。1人1,000円ご協力をお願いします。

委員会報告： 親睦活動委員会

先日ご連絡しましたが12／25（火）は18：30～饞心亭 おゝ乃てにクリスマスパーティーです。新装オープンのレオナにて二次会も計画致しました多数のご参加をお願いいたします。会費3,000円です。当日受付にて出欠確認させていただきます。

ニコニコボックス：	18日現在累計	595,000円
-----------	---------	----------

木 宮 隆 君

山 中 正 君 年賀のごあいさつに変えて（チョット早いですが）但し、木宮会長は喪中につき年賀欠礼です。

今 井 克 義 君 2月に親睦委員会で夫人同伴の伊豆半島への旅行を計画中です。返畿ツーリストの橋さんをお願いしています。皆様、楽しみにお待ち下さい。

笠 原 水 玄 君 三条市仏教会長の役を大事なく二年間終ることが出来、納会一部も無事完了しました。晴々した気持ちです。皆様にお礼申し上げます。

佐 藤 啓 策 君 今泉様の卓話が早退により聞けないのが残念です。又の機会に聞かせて下さい。

羽 賀 一 夫 君 白倉さん、娘さんの世界チアガール選手権優勝おめでとうございました。

山 本 賢 君 年賀欠礼させていただきます。

卓 話： 「コミュニティ放送局の課題」燕三条エフエム放送（株）

代表取締役専務・放送局長 今泉捷治様



今ほどご紹介いただきました燕三条FM放送の今泉でございます。ご紹介の内容が少し違っておりましたので訂正させていただきます。私はこちらに参りましたのは昨年でございまして、それまで第四銀行におり第四銀行出身でございます。この世界に入りましてまだ1年そこそこの若輩でございます。開設の経緯その他は、先程木宮会長さんよりいろいろお話がございましたように、開局に至るいろいろな経緯、それから、FMのかかえている役割。そういったものを、非常にわかりやすく木宮さんよりお話しいただきまして、私の話は半分終わったのかなぁといった次第でございます。

私は、銀行にありました頃は融資畑で歩いてきまして、主に財務諸表の分析をしたり、あるいは経営者の方から事業計画を伺ったり、あるいは融資に関してお預かりする担保物件の不動産の評価をしたり、と、このような仕事をやってまいりまして、俗にいう左脳を、銀行でございますから数

字の世界でございまして、左脳を一生懸命使ったということだろうと思います。昨年こちらに来ましたら、全く畑が違いまして、感性の世界といましょうか、閃きとか想像とか、どこからどこまで仕事で遊びか。わからないのが、そんなような仕事でございまして、そういう意味では右脳を使わないとまずいかなあと。今まであんまり使う機会がなかったのかなあと。それを今一生懸命引っ張り出しているといったところでございます。

さてFMについてでございますが、今現在全国で147局が開局しています。このうち新潟県内では、他の県に比べまして少し多くて9局がございます。北から話しますと、FM新発田がございます。それからFM県都、これは新潟市でございます。それから新津FM。それからFM角田山というのがあります。これは今年6月、巻に開局した新しいFM局でございます。それから私ども燕三条FM。それからさらに長岡にございますFM長岡。それからFM雪国。これは六日町にございます。あとはFM柏崎とFM上越。この9局でございます。このうち約半分に当たります4局が、第3セクターなんですね。あと私ども含めました5局が、準民間方式といったところでございます。この傾向は全国の147局もほぼ同じでございます。147局ございますけれども、半分が3セクで、半分が準民間になるといった状況でございます。この他に、新潟には皆様方がよくご承知のFM新潟。それから、FMポートという県域のFM局が2局ございますけれども、これはいずれも弥彦の山頂に送信アンテナがございまして、そこから1kWの電波で飛ばしていると。

私どもコミュニティの場合は20Wでございますので、50倍でございますから、県域のFMさんはちょっと対象外ということでございます。このコミュニティFM局が法制化されましたのが平成4年でございまして、この当時は非常に全国的にも開局数がまばらでございまして、コミュニティFM局は、平成4年・5年・6年の3年間で全国で15局開局した。年間4〜5局程度が開局するといった状況だった訳ですね。ところがご承知の様にですね、平成7年の1月に阪神淡路の大震災が発生しました。この時にですね、TVはもちろん駄目ですし、電話もつながらない、と。つまり電柱そのものが燃えてしまっている訳ですから、有線そのものがことごとく使えないと言う中でですね、災害・震災の中心地でありました神戸市長田区では、市民の方がですね、200〜300名がボランティアで、FMわいわい、というコミュニティ放送局を立ち上げました。このFMわいわい、はですね、罹災者にとりまして大変役に立ったんですね。それが結果的には元気付けられたと、こういったことがある訳です。このFMわいわいは、じゃ何をやったかということこれはですね、もう本当に罹災者の身近の情報をですね、リアルタイムにこれを流し続けた訳です。たとえば、誰それさんはどこそこに避難をしていますよ、とかあるいは、交通機関とか道路状況の復旧状況はどんな具合になっていますよ。

あるいは、救援物資が来ました、とか、どこそこに行けば風呂に入れます、といった情報までですね。非常に身近な情報をですね、タイムリーに流し続けた。これが罹災者にとりまして、大変元気付けられ、結果的にはですね、市民の生命とか、財産とか、安全とかといったものを守ることにつながった訳でございます。

まあこんなことで、そのFMわいわいはですね、一つの起爆剤になりまして、やはりその災害に強いFMを、といったものが全国的にすっかり定着をいたしまして、平成7年は準備期間等もあり

ましたから15局くらいでしたけれども、平成8年・9年・10年の3ヵ年でですね、全国に100局ができました。燕三条FMも、平成8年に行政で必要性について調査され、開局したのが平成10年といったことでございます。

それではFMのコミュニティ局のかかえている課題は何かと言うことでございますけれども、先程木宮会長さんの方からありましたけれども、やはり1つは地域に役立つ放送局でなければならないことで、肌理の細かいその情報を地域にどうやって流していくか、ということが一番大きな課題だろうと思います。そういう意味ではFMわいわいにやはりコミュニティ放送局の原点があるんじゃないかと、私はつねづね思っております。それでは、その役に立つ情報とは何かと言うこととなりますが、これはやはり三つに分かれると思うのです。

一つは生活情報といいますが、私どもその生番組の間を東京から配信を受けるジェイウェーブという番組で流しておりますけれども、ジェイウェーブとか、あるいはミュージックバードという番組がありますが、こういうものを一日中流し続けるというコミュニティ放送局もあるようです。狂信的なリスナーとか、あるいは若い人なんかの何パーセントかはこれでファンがつくかもしれせんけれども、これでは地域に役立つということはとてもいえない訳でして、その存在意義は大変薄いんじゃないかなと思っておりますね。やはり経営者の方からご家庭の主婦まで。あるいは、ご年輩の方から若者まで、それぞれ各層・各年代の方々が生活をする上に役立つ情報をまず流していかなければならない。それは何か。先程木宮会長さんの話にもありましたけれども、お買い物得々情報とか、あるいは今、毎朝7時20分と8時30分に教育委員会の方からご協力いただきまして、三条市・燕市の小中学校の行事予定を毎日放送しております。お子さんを持つ親御さんは、その時間にちょっとスイッチを入れて頂ければ多少まあお役に立つ話があるんじゃないかなと。まあこういう生活情報ですね。これはやはり大事だろうと。

次に必要となりますのが、万が一の場合の災害も含めまして市(行政)の広報的な仕事もやっている訳ですから、行政の情報、これが2番目だろうと思います。で、たとえば現在三条の場合はピックアップ三条。それから燕の場合燕情報クリップという番組で、毎日再放送の時間も入れまして40分間ずっと放送しております。特に三条市は高橋市長自らしょっちゅう番組に出ておられ、市民の方に語りかけられるということが、結構なんか好評をいただいているようでございまして、これは11月からスタートしており、こういった行政情報です。

それからいま1つは、やはりコミュニティFMの役割にも通じる訳ですが、地域の文化情報発信基地としての役割を担っている訳ですから、そうした意味で地域文化情報がやはり必要だろうということで、現在県央地区で開催されます様々な講演会を収録いたしまして、後日、日曜日の朝8時から2時間半の枠取りの中で放送しております。当然その講師の方の了解も必要になりますけれども、ご了解いただきまして放送して、もう6ヶ月になります。最初はネタ不足が心配だったんですが、非常に最近定番になりまして、むしろ主催者の方から電話が掛かってきまして「1時から誰それさんの講演会があるので収録に来てくれ」というようなところまで今きております。で、私どもの株主、あるいは、スポンサー、各社経営者の方々に、来月の放送予定表をFAXでお送りして